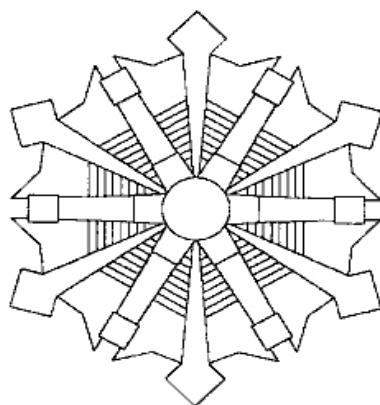


消防年報

令和7年版



太田市消防本部

(令和8年刊行)

ま え が き

平成17年3月28日、旧太田市、尾島町、新田町、藪塚本町が新設合併し、新「太田市」が誕生したことにより、昭和47年に太田市、大泉町、新田町、尾島町により設立された『太田地区消防組合』が解散され、新たに『太田市消防本部』が設置されました。

この消防年報は、令和7年中の消防業務について収録し、今後の消防行政の合理的な運営に資するとともに、当消防本部の消防現況を広くご理解いただくために編集したものです。

なお、災害発生統計事項等については暦年により、その他の業務関係事項等については会計年度をもって表しておりますが、年月日を明記したものはその時点での現況となっております。

太 田 市 消 防 本 部



みんなの笑顔がすぐそばにあるまち おおた

太 田 市

市 章



平成17年6月28日告示

かつて、この地域を治めた

新田氏の旗印である大中黒をベースに、右下に市名をひらがなで配置。カラーは黒で、大中黒に脈々と受け継がれる伝統と革新の精神を表現しています。



マスコットキャラクター

愛称：おおたん

太田市のアルファベット表記の頭文字

「O」を基調にし、頭部の4つの丸は合併した4市町を表し、体の色（緑）は自然に恵まれた市をイメージしています。

市の木・市の花

シンボル木：マツ

木：モクセイ、カエデ、イチョウ

花：キク、サルビア、ツツジ、シュンラン

目次

●概要

1 消防の沿革	1
2 位置と地勢	13
3 管内面積、人口及び世帯数	13
4 消防機関の所在地及び配置	14
5 消防庁舎の現況	15
6 消防相互応援協定等の状況	16
7 消防予算及び決算	17

●総務

1 組織図	18
2 消防本部分掌事務	19
3 消防署・分署分掌事務	21
4 消防職員の配置状況	22
5 消防職員の勤続年数	23
6 消防職員の年齢	24
7 消防職員の研修状況	25

●火災

1 火災発生状況(前年比較)	26
2 署別火災発生状況(前年比較)	27
3 出火原因別発生状況	28
4 月別火災発生状況	29
5 署別火災発生状況(月別)	30
6 署別火災損害額状況	31
7 署別建物火災損害額状況	31
8 署別焼損棟数	32
9 署別焼損面積	33
10 署別り災世帯数・人員	33
11 署別死傷者数	34
12 火災の覚知区分状況	34
13 建物用途別火災発生状況	35
14 管轄署所別火災発生状況	35

●予防

1 各種調査・指導状況	36
2 各種届出等の状況	36
3 消防法施行令別表第1に掲げる 防火対象物査察状況	37
4 危険物施設の査察状況	37
5 その他の査察状況	38
6 表示マーク交付状況	38
7 危険物製造所等の数量別、類別状況・ 諸届処理状況	39
8 危険物製造所等の許可、 検査等の処理状況	40
9 消防同意件数	41
10 建築物用途別同意件数	41
11 消防用設備等設置指導件数	42
12 消防用設備等設置状況 (延べ面積150㎡以上)	43
13 消防用設備等検査済証交付状況	44

●警防

1 消防車両等配置状況	45
2 消防車両等経過年数	45
3 消防車両車種等の状況	46
4 災害出動状況	48
5 消防水利設置状況(公設)	49
6 消火栓管径別状況(公設)	49
7 中高層建物(4階以上)一覧表	50
8 消防資器材配備状況	51

●救急・救助

1 救急出動・搬送人員状況 (地域・署所別)	52
2 救急出動状況 (事故種別・署所別)	53
3 事故種別出動件数割合	54
4 事故種別搬送人員割合	54

5 月別出動件数・搬送人員	54
6 曜日別出動件数	55
7 時間別出動件数	55
8 性別搬送人員	55
9 年齢別搬送人員	55
10 傷病程度別事故種別搬送人員	56
11 救急事案に係る消防隊出動状況	56
12 過去10年間の救急出動状況	57
13 救急搬送人員と高齢者（65歳以上） 搬送人員の推移	57
14 救急隊員の行った応急処置	58
15 外国人発生地域別搬送人員	59
16 外国人国籍別搬送人員	59
17 過去10年間の外国人搬送人員推移	59
18 普及啓発活動実施状況	60
19 救急資器材配備状況	60
20 救助出動状況（地域別）	61
21 救助出動状況（署別）	61

●通信指令

1 高機能消防指令センター システム構成図	62
2 通報受付状況	63
3 固定電話からの119番事案別状況	64
4 I P電話からの119番事案別状況	64
5 携帯電話からの119番事案別状況	64
6 携帯電話からの119番受信転送状況	65
7 口頭指導実施状況	65
8 月別医療機関案内状況	66
9 科目別案内状況	66
10 時間別案内状況	66
11 月別気象状況	67
12 気象通報状況	68
13 多言語通訳サービス利用状況	69
14 災害情報メールサービス送信状況	69

●消防団

1 消防団の沿革	70
2 太田市消防団組織機構図	76
3 消防団員階級別年齢別調	77
4 消防団員階級別在団年数調	78
5 消防団員階級別実員	79
6 消防団車両配置一覧表	80

概要



1 消防の沿革

- 昭和 47 年 4 月 太田市、大泉町、新田町、尾島町 1 市 3 町構成による太田地区消防組合を設立する。
太田市消防本部を太田地区消防組合消防本部に、太田市消防署を中央消防署に、大泉町消防本部消防署を東部消防署と改める。
新たに西部消防署を設置する。
太田市消防署北分署、石橋分署を太田地区消防組合中央消防署北分署、石橋分署と改める。
新たに西部消防署西分署を設置する。
太田市助役中沢保夫、太田地区消防組合消防長事務取扱に就任する。
消防職員定数 158 人となる。
消防職員実員数 146 人となる。
- 6 月 福島岩雄、消防長に就任する。
- 9 月 救急車を購入し、中央消防署に配置する。
広報車を購入し、西部消防署に配置する。
消防ポンプ自動車を 2 台購入し、東部消防署及び西部消防署に配置する。
- 昭和 48 年 1 月 救急車を購入し、西部消防署に配置する。
2 月 西部消防署西分署を新築移転する。
4 月 消防職員実員数 152 人となる。
5 月 東部消防署を新築移転する。
西部消防署を新築移転する。
9 月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、中央消防署に配置する。
10 月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、西部消防署に配置する。
- 昭和 49 年 3 月 指令車を購入し、消防本部に配置する。
4 月 消防職員実員数 154 人となる。
11 月 化学消防ポンプ自動車Ⅲ型を購入し、中央消防署に配置する。
12 月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、東部消防署に配置する。
- 昭和 50 年 4 月 消防職員実員数 155 人となる。
10 月 新田尾島防火管理者協議会設立。
11 月 屈折梯子付消防自動車(16m級)を購入し、中央消防署に配置する。
- 昭和 51 年 2 月 群馬県共済農業協同組合連合会から救急車 1 台が寄贈される。
4 月 消防職員実員数 156 人となる。
10 月 石川宗次郎、消防長に就任する。
- 昭和 52 年 3 月 石橋分署を新築移転する。
4 月 消防職員定数 180 人に改める。
消防職員実員数 165 人となる。
6 月 査察車 2 台を購入し、消防本部、北分署及び石橋分署に配置する。
10 月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、北分署に配置する。

- 昭和 53 年 4 月 消防職員実員数 173 人となる。
- 5 月 連絡車 3 台を購入し、消防本部、北分署及び石橋分署に配置する。
- 9 月 水槽付消防ポンプ自動車 2 台を購入し、東部消防署及び西分署に配置する。
- 救急車を購入し、北分署に配置する。
- 昭和 54 年 4 月 消防職員実員数 173 人となる。
- 5 月 査察車を購入し、東部消防署に配置する。
- 10 月 化学消防ポンプ自動車Ⅱ型を購入し、西部消防署に配置する。
- 昭和 55 年 4 月 消防職員実員数 178 人となる。
- 千代田造機からマイクロバス中古車 1 台が寄贈される。
- 群馬県救急医療情報システム開設に伴い、情報サービスセンターとしてディスプレイ装置を設置する。
- 8 月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、石橋分署に配置する。
- 消防ポンプ自動車を購入し、中央消防署に配置する。
- 12 月 太田地区危険物安全協会から広報車 1 台が寄贈される。
- 昭和 56 年 4 月 消防職員実員数 179 人となる。
- 5 月 福島病院から救急車 1 台が寄贈される。
- 9 月 可搬ポンプ付水槽車(10 t)を購入し、中央消防署に配置する。
- 消防ポンプ自動車を購入し、北分署に配置する。
- 昭和 57 年 2 月 城山病院から指令車 1 台が寄贈される。
- 4 月 消防職員定数 190 人に改める。
- 北部消防署を新築する。
- 消防職員実員数 185 人となる。
- 広報車 2 台を購入し、消防本部及び北部消防署に配置する。
- 8 月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、北部消防署に配置する。
- 9 月 日本消防協会から軽可搬ポンプ 3 台が寄贈され、太田市婦人防火クラブへ 2 台、新田町婦人消防隊へ 1 台配置する。
- 可搬ポンプ積載車 1 台を日本消防協会から寄贈される。
- 10 月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、中央消防署に配置する。
- 昭和 58 年 4 月 消防職員定数 195 人に改める。
- 消防職員実員数 195 人となる。
- 群馬県共済生活協同組合太田支部から連絡車 1 台が寄贈される。
- 8 月 富士重工業(株)から連絡車 1 台が寄贈され、中央消防署に配置する。
- 日本消防協会から軽可搬ポンプ 2 台が寄贈され、太田市婦人防火クラブへ 1 台、新田町婦人消防隊へ 1 台配置する。
- 10 月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、西部消防署に配置する。

- 11月 太田市婦人防火クラブへ日本消防協会から広報車1台が寄贈される。
- 12月 救助工作車を購入し、中央消防署に配置する。
- 昭和59年 1月 日本損害保険協会から救急車が寄贈され、西部消防署に配置する。
- 2月 査察車を購入し、西部消防署西分署に配置する。
- 4月 消防職員定数201人に改正する。
消防職員実員数197人となる。
- 10月 化学消防ポンプ自動車を購入し、東部消防署に配置する。
- 11月 北部消防署に消防訓練塔を新築する。
- 昭和60年 4月 消防職員定数207人に改正する。
消防職員実員数202人となる。
- 5月 新田町婦人消防隊が県知事から消防防災功労表彰旗を授与される。
- 8月 日本消防協会から救急車が寄贈され、東部消防署に配置する。
- 9月 消防ポンプ自動車を購入し、西部消防署に配置する。
日本消防協会から軽可搬ポンプ2台が寄贈され、太田市婦人防火クラブに配置する。
- 10月 消防職員定数217人に改正する。
東部消防署車庫を増築する。
- 11月 屈折車(25m級)を購入し、東部消防署に配置する。
- 昭和61年 4月 天笠久雄、消防長に就任する。
消防職員実員数217人となる。
- 7月 消防職員定数224人に改正する。
- 9月 水槽付消防ポンプ自動車、救急車及び広報車を購入し、西部消防署尾島分署に配置する。
人員輸送車を購入し、消防本部に配置する。
広報車を購入し、東部消防署に配置する。
- 10月 西部消防署尾島分署が開署する。
- 11月 消防本部庁舎増築。
- 昭和62年 4月 消防職員実員数224人となる。
- 9月 中央消防署北分署新築。
- 11月 化学消防ポンプ自動車Ⅱ型を購入し、北部消防署に配置する。
水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型を購入し、東部消防署に配置する。
救急車3台を購入し、中央消防署、石橋分署及び西分署に配置する。
- 昭和63年 3月 城山病院から消防広報車が寄贈され、中央消防署に配置する。
- 4月 消防職員定数238人に改正する。
消防職員実員数238人となる。
- 5月 消防広報車2台を購入し、中央消防署北分署及び北部消防署石橋分署

- に配置する。
- 11月 消防ポンプ自動車1台を購入し、西部消防署西分署に配置する。
西部消防署西分署新築移転。
- 平成元年 4月 西部消防署西分署を廃止し、同所に新田消防署を設置する。
消防職員実員数238人となる。
尾島町婦人防火クラブ結成。
- 5月 連絡車を購入し、消防本部に配置する。
- 6月 広報車を購入し、消防本部に配置する。
- 8月 救急車2台を購入し、中央消防署北分署及び北部消防署に配置する。
- 10月 梯子付消防自動車(30m級)を購入し、中央消防署に配置する。
- 平成2年 1月 防振救急車を購入し、中央消防署に配置する。
- 2月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、中央消防署北分署に配置する。
太田ライオネスクラブより連絡車が寄贈され、通信指令室に配置する。
- 3月 日本自動車工業会より救急車が寄贈され、東部消防署に配置する。
- 4月 消防職員定数250人に改正する。
消防職員実員数247人となる。
- 5月 消防広報車を購入し、西部消防署に配置する。
新田町婦人消防隊、消防庁長官表彰(安全功労者)を受賞する。
- 9月 太田地区消防組合、群馬県救急医療・救急業務功労者団体の部で知事表彰される。
消防ポンプ自動車CD-II型を購入し、中央消防署に配置する。
梯子付消防自動車(15m級)を購入し、新田消防署に配置する。
- 11月 太田地区危険物安全協会より広報車が寄贈され、消防本部予防課危険物係に配置する。
- 平成3年 4月 消防職員実員数250人となる。
- 7月 広報車2台を購入し、消防本部警防課及び大泉消防署に配置する。
- 8月 消防ポンプ自動車CD-II型を購入し、大泉消防署に配置する。
- 9月 消防職員定数266人に改正する。
東部消防署を大泉消防署に改称し新築移転する。
旧大泉消防署所在地に大泉消防署大泉北分署を設置する。
水槽付消防ポンプ自動車II型を購入し、新田消防署に配置する。
- 10月 太田ロータリークラブより指令車が寄贈される。
水槽付消防ポンプ自動車II型を北部消防署石橋分署に配置する。
- 平成4年 3月 西部消防署に消防訓練塔を新築する。
- 4月 消防職員実員数252人となる。

- 5月 水防資材搬送車を購入し、消防本部に配置する。
- 9月 消防職員定数 281 人に改正する。
- 11月 広報車を購入し、北部消防署に配置する。
化学消防ポンプ自動車を購入し、中央消防署に配置する。
- 12月 高規格救急車を購入し、中央消防署に配置する。
- 平成 5年 4月 消防職員実員数 275 人となる。
連絡車を購入し、消防本部総務課に配置する。
- 9月 消防ポンプ自動車CD-II型を購入し、北部消防署に配置する。
救急車 2 台を購入し、西部消防署及び新田消防署に配置する。
- 平成 6年 3月 中央消防署南分署を新築し、仮運用を開始する。
水槽付消防ポンプ自動車II型及び広報車を購入し、中央消防署南分署に配置する。
- 4月 中央消防署南分署が開署となる。
消防職員実員数 282 人となる。
- 6月 広報車を購入し、新田消防署に配置する。
- 11月 救急車を購入し、北部消防署に配置する。
- 12月 水槽付消防ポンプ自動車II型 2 台を購入し、中央消防署及び北部消防署に配置する。
- 平成 7年 4月 消防職員実員数 281 人となる。
連絡車を購入し、消防本部総務課に配置する。
- 7月 藤掛充正、消防長に就任する。
- 9月 消防職員定数 290 人に改正する。
化学消防ポンプ自動車を購入し、西部消防署に配置する。
- 10月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、西部消防署に配置する。
- 11月 救急車を購入し、北部消防署石橋分署に配置する。
- 平成 8年 1月 救急車を購入し、西部消防署尾島分署に配置する。
- 3月 高規格救急車を購入し、大泉消防署に配置する。
- 4月 消防職員実員数 285 人となる。
- 平成 9年 3月 救助工作車III型を購入し、中央消防署に配置する。
- 4月 消防職員実員数 287 人となる。
清水舜、消防長に就任する。
- 9月 消防職員定数 321 人に改正する。
- 平成 10年 3月 消防本部・中央消防署庁舎が竣工する。
- 4月 中央消防署を太田消防署に、北部消防署を毛里田消防署に、中央消防署南分署を太田消防署沢野分署に、中央消防署北分署を太田消防署葦川分署に、北部消防署石橋分署を太田消防署強戸分署に改める。太田

- 市鳥山下町 409 番地 1 に消防本部及び太田消防署を移転し、旧消防本部・太田消防署所在地に太田消防署九合分署を設置する。
消防職員実員数 303 人となる。
水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型を購入し、太田消防署九合分署に配置する。
広報車を購入し、太田消防署九合分署に配置する。
- 平成 11 年 5 月 富士重工業(株)より指揮車が寄贈され、太田消防署に配置する。
6 月 消防本部・太田消防署庁舎落成式を挙げる。
2 月 高規格救急車を購入し、太田消防署九合分署に配置する。
3 月 大泉消防署に消防訓練塔を新築する。
4 月 星野安正、消防長に就任する。
消防職員実員数 316 人となる。
- 平成 12 年 2 月 小型動力ポンプ付水槽車を購入し、太田消防署に配置する。
高規格救急車を購入し、尾島消防署に配置する。
4 月 西部消防署尾島分署を尾島消防署に組織改編・改称し、尾島町大字粕川 432 番地 1 に移転する。
西部消防署を廃止し、同所に太田消防署宝泉分署を設置する。
消防職員実員数 321 人となる。
太田市防火管理者協議会、大泉防火管理者協議会及び新田尾島防火管理者協議会を統合し、太田地区防火管理協会を結成する。
- 5 月 救急用自動二輪車 2 台を購入し、太田消防署及び大泉消防署に配置する。
6 月 消防音楽隊内にカラーガード(男女各 4 名)を発足する。
7 月 富士重工業(株)より指揮車が寄贈され、尾島消防署に配置する。
11 月 太田地区危険物安全協会より広報車が寄贈され、消防本部に配置する。
- 平成 13 年 2 月 高規格救急車を購入し、新田消防署に配置する。
消防ポンプ自動車 C D - Ⅱ型を購入し、尾島消防署に配置する。
4 月 飯田芳雄、消防長に就任する。
消防職員実員数 321 人となる。
8 月 救急用自動二輪車 3 台を購入し、毛里田消防署、尾島消防署及び新田消防署に配置する。
12 月 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型 2 台を購入し、太田消防署宝泉分署及び大泉消防署大泉北分署に配置する。
- 平成 14 年 3 月 高規格救急車 2 台を購入し、毛里田消防署及び大泉消防署大泉北分署に配置する。

- 4月 松島健三、消防長に就任する。
消防職員実員数 321 人となる。
- 平成 15 年 2月 災害対応特殊化学消防ポンプ自動車Ⅱ型を購入し、大泉消防署に配置する。
災害対応特殊消防ポンプ自動車CD-Ⅱ型を購入し、新田消防署に配置する。
- 4月 消防職員実員数 320 人となる。
- 7月 現場指揮車を購入し、太田消防署葦川分署に配置する。
- 10月 人員輸送車を購入し、消防本部に配置する。
- 平成 16 年 2月 指揮車を購入し、太田消防署強戸分署に配置する。
- 3月 高規格救急車を購入し、太田消防署に配置する。
- 4月 消防職員実員数 320 人となる。
- 5月 指揮車を購入し、消防本部財務課に配置する。
- 7月 関係市町の廃置分合による太田地区消防組合の解散に伴う財産処分に関する法定上の協議が調う。
- 10月 指揮車を購入し、消防本部予防課に配置する。
- 12月 資材搬送車を購入し、太田消防署に配置する。
- 平成 17 年 1月 関係市町の廃置分合による太田地区消防組合の解散に伴う事務承継に関する法定上の協議が調う。
- 3月 関係市町の廃置分合により太田地区消防組合が解散する。
太田市消防本部並びに太田消防署、尾島消防署、新田消防署、藪塚消防署及び大泉消防署を設置する。
消防職員定数 360 人となる。
松島健三、初代消防長に就任する。
大泉町の消防事務を受託する。
水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型を購入し、太田消防署葦川出張所に配置する。
化学消防ポンプ自動車Ⅱ型購入し、太田消防署毛里田分署に配置する。
梯子付消防自動車（30m級）を購入し、大泉消防署に配置する。
- 4月 消防職員実員数 334 人となる。
- 7月 石原康男、消防長に就任する。
- 9月 指令車を購入し、大泉消防署に配置する。
- 11月 指令車を購入し、藪塚消防署に配置する。
- 平成 18 年 3月 梯子付消防自動車（40m級）及び救急用自動二輪車を購入、太田消防署に配置する。

- 災害対応特殊救急車を購入し、太田消防署宝泉出張所に配置する。
 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型購入し、新田消防署に配置する。
 高規格救急車を購入し、藪塚消防署に配置する。
- 平成 19 年 4 月 消防職員実員数 344 人となる。
 8 月 消防総合計画策定（平成 19 年度～28 年度）
 12 月 広報車を購入し、太田消防署宝泉出張所に配置する。
- 平成 19 年 3 月 災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型を購入し、藪塚消防署に配置する。
- 4 月 太田消防署を中央消防署に、太田消防署毛里田分署を東部消防署に、
 新田消防署を西部消防署に改め、太田消防署強戸出張所を中央消防署
 強戸出張所に、太田消防署宝泉出張所を中央消防署宝泉出張所に、太
 田消防署沢野分署を中央消防署沢野分署に、太田消防署葦川出張所を
 東部消防署葦川出張所に、太田消防署九合分署を東部消防署九合分署
 に改め、尾島消防署を西部消防署尾島分署に、藪塚消防署を西部消防
 署藪塚分署に組織改編・改称する。
 岡島幸雄、消防長に就任。
 消防職員実員数 344 人となる。
- 10 月 太田市飯塚町 87 番地 1 に東部消防署九合分署が竣工する。
- 平成 20 年 12 月 災害対応特殊救急車を購入し、中央消防署沢野分署に配置する。
 3 月 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型を購入し、中央消防署に配置する。
 4 月 青木節雄、消防長に就任する。
 消防職員実員数 344 人となる。
- 12 月 太田市山之神町 243 番地 2 に西部消防署藪塚分署が竣工し、運用開始
 となる。
 中央消防署強戸出張所が廃止となる。
- 平成 21 年 1 月 西部消防署藪塚分署が開署する。
 3 月 救急用自動二輪車を購入し、大泉消防署に配置する。
 指揮車 2 台を購入し、消防本部及び東部消防署に配置する。
 消防ポンプ自動車 CDⅡ型を購入し、西部消防署藪塚分署に配置する。
 消防ポンプ自動車 CDⅠ型を購入し、東部消防署に配置する。
- 4 月 消防職員実員数 344 人となる。
 9 月 資材搬送車を購入し、大泉消防署に配置する。
- 11 月 支援車 1 台を購入し、消防本部に配置する。
- 平成 22 年 1 月 太田地区防火安全協会から連絡車が寄贈され、消防本部に配置する。
 4 月 松本繁、消防長に就任する。
 消防職員実員数 343 人となる。

- 平成 23 年 3 月 総務省消防庁から消防組織法第 50 条に基づく国有財産の無償使用により、支援車Ⅰ型が配備される。
- 4 月 倉上和裕、消防長に就任する。
- 平成 24 年 3 月 東部消防署九合分署及び西部消防署尾島分署に配置の高規格救急車を更新する。
- 4 月 消防職員実員数 344 人となる。
葦川出張所を統合した東部消防署が新築移転し、開署となる。
- 12 月 株式会社エコロジスタから指揮車が寄贈され、西部消防署に配置する。
株式会社群桐産業から指揮車が寄贈され、西部消防署藪塚分署に配置する。
- 平成 25 年 2 月 救助工作車Ⅲ型を購入し、中央消防署に配置する。
- 4 月 見持雅昭、消防長に就任する。
消防職員実員数 341 人となる。
- 12 月 富士重工業（株）から連絡車が寄贈され、消防総務課に配置する。
- 平成 26 年 3 月 西部消防署に配置の高規格救急車を更新する。
- 4 月 中央消防署宝泉出張所を統合した中央消防署沢野分署が新築移転し、開署となる。
消防ポンプ自動車Ⅰ型を購入し、中央消防署沢野分署に配置する。
消防職員実員数 338 人となる。
- 10 月 資材搬送車 2 台を購入し、西部消防署尾島分署及び西部消防署藪塚分署に配置する。
- 平成 27 年 2 月 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型を購入し、西部消防署尾島分署に配置する。
化学消防ポンプ自動車Ⅲ型を購入し、中央消防署に配置する。
大泉消防署城之内出張所に配置の高規格救急車を更新する。
- 4 月 久保田誠一郎、消防長に就任する。
消防職員実員数 336 人となる。
- 平成 28 年 2 月 大泉消防署城之内出張所が竣工し、運用開始となる。
- 4 月 消防職員定数 350 人に改定する。
消防職員実員数 337 人となる。
- 12 月 中央消防署に配置の高規格救急車を更新する。
- 平成 29 年 2 月 災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車を購入し東部消防署九合分署へ配置する。
- 3 月 資機材搬送車及びポートトレーラーを購入し、東部消防署に配置する。

- 4月 服部隆志、消防長に就任する。
消防職員実員数 335 人となる。
- 9月 総務省消防庁から消防組織法第 50 条に基づく国有財産の無償使用により、燃料補給車が配備される。
- 12月 救助工作車Ⅲ型を購入、中央消防署の救助工作車Ⅲ型を更新する。中央消防署の救助工作車更新に伴い、東部消防署に配備の救助工作車Ⅲ型を配置換えにより更新する。
- 平成 30 年 1月 西部消防署藪塚分署に配置の高規格救急車を更新する。
3月 中央消防署沢野分署に配置の指令車を更新する。
ボートトレーラーを購入し、中央消防署沢野分署に配置する。
4月 消防職員実員数 337 人となる。
中央消防署に高度救助隊が発隊する。
東部消防署に特別救助隊が発隊する。
- 平成 31 年 1月 大泉消防署に配置の高規格救急車を更新する。
2月 中央消防署沢野分署に配置の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
3月 中央消防署に配置の大型水槽車を更新する。
中央消防署に配置の高規格救急車を更新する。
連絡車を購入し、消防本部警防課に配置する。
4月 石澤光之、消防長に就任する。
消防職員実員数 339 人となる。
- 令和元年 9月 中央消防署沢野分署に配置の高規格救急車を更新する。
12月 消防本部消防総務課に配置の連絡車を更新する。
西部消防署尾島分署に配置の災害対応特殊消防ポンプ自動車 CD I 型を更新する。
- 令和 2 年 2月 大泉消防署城之内出張所に配置の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
3月 西部消防署に配置の化学消防ポンプ自動車Ⅱ型を更新する。
4月 消防職員実員数 342 人となる。
- 令和 3 年 3月 消防本部予防課に配置の火災調査車を更新する。
消防本部通信指令課に配置の連絡車を更新する。
東部消防署九合分署に配置の高規格救急車を更新する。
西部消防署に配置の消防ポンプ自動車 CD I 型を更新する。
4月 櫻井修一、消防長に就任する。
消防職員実員数 346 人となる。
- 令和 4 年 1月 西部消防署尾島分署に配置の高規格救急車を更新する。
3月 西部消防署に配置の資材搬送車を更新する。

- 消防本部警防課に配置の指揮車を更新する。
- 4月 消防職員実員数 345 人となる。
水上バイクを導入し、中央消防署に配置する。
- 7月 ボートトレーラーを購入し、中央消防署に配置する。
- 8月 株式会社 SUBARU から感染防止対策車両(フォレスター)が寄贈され、消防本部救急課に配置する。
- 令和 5年 4月 竹内富雄、消防長に就任する。
消防職員実員数 344 人となる。
- 5月 西部消防署敷地内に新庁舎を建設し、開署する。
- 令和 6年 2月 西部消防署に配置の高規格救急車を更新する。
- 3月 中央消防署に配置の指令車を更新する。
西部消防署藪塚分署に配置の災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型を更新する。
大泉消防署に配置の消防ポンプ自動車 CDⅠ型を更新する。
大泉消防署に配置の広報車を更新する。
- 4月 消防職員実員数 349 人となる。
- 6月 西部消防署敷地内の救助訓練施設を建替え、竣工する。
- 9月 消防本部消防総務課に配置の中型バスを更新する。
- 11月 消防本部救急課に災害対応特殊救急自動車を増車する。
- 12月 東部消防署九合分署に配置の指令車を更新する。
西部消防署尾島分署に配置の指令車を更新する。
- 令和 7年 2月 中央消防署に配置の消防ポンプ自動車 CDⅠ型を更新する。
- 3月 中央消防署に配置の災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型を更新する。
大泉消防署に配置の災害対応特殊化学消防ポンプ自動車Ⅱ型の更新する。
- 4月 消防本部予防課に配置の指令車を更新する。
小島一也、消防長に就任する。
消防職員実員数 347 人となる。
- 10月 東部消防署に配置の高規格救急車を更新する。
東部消防署九合分署に配置の災害対応特殊救急自動車を更新する。
- 令和 8年 2月 太田地区防火安全協会から連絡車(インプレッサ)が寄贈され、消防本部予防課に配置する。
- 3月 消防本部予防課に配置の連絡車(インプレッサ)を更新する。
東部消防署に配置の災害対応特殊消防ポンプ自動車 CDⅠ型を更新する。

東部消防署に配置の広報車を更新する。

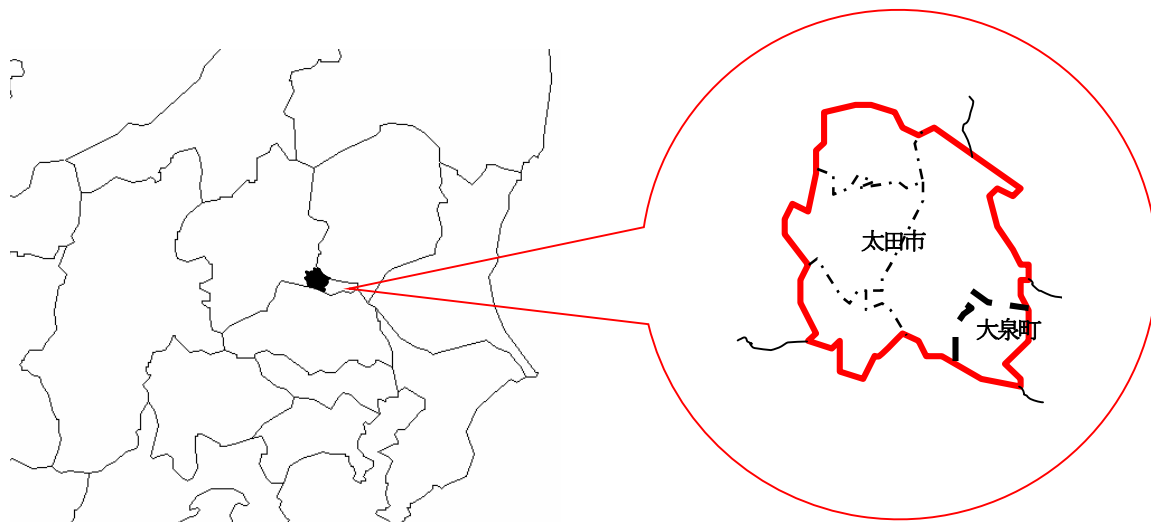
大泉消防署に配置の災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型を更新する。

4月 新島亨、消防長に就任する。
消防職員実員数 349 人となる。

2 位置と地勢

太田市消防本部は、関東平野の北部、群馬県南東部に位置し（東経139度、北緯36度）、東京から北西へ約86kmの距離にあり、東側は千代田町・邑楽町・栃木県足利市、西側は伊勢崎市、南側は埼玉県熊谷市・深谷市、北側は桐生市・みどり市に接しています。

地勢は、市街地北部に標高239mの金山と、それに接続する八王子丘陵が走るほかは概ね平坦地で、その標高は30mから110mとなっています。



3 管内面積、人口及び世帯数

令和8年4月1日現在

区分	面積 (k㎡)	人口(人)			世帯数
		うち外国人登録人口(人)			うち外国人 登録世帯数
		男	女	計	
市町	太田市	114,029	108,020	222,049	104,875
		9,811	7,167	16,978	10,058
大泉町	18.03	21,514	19,662	41,176	20,961
		4,770	4,270	9,040	4,923
計	193.57	135,543	127,682	263,225	125,836
		14,581	11,437	26,018	14,981

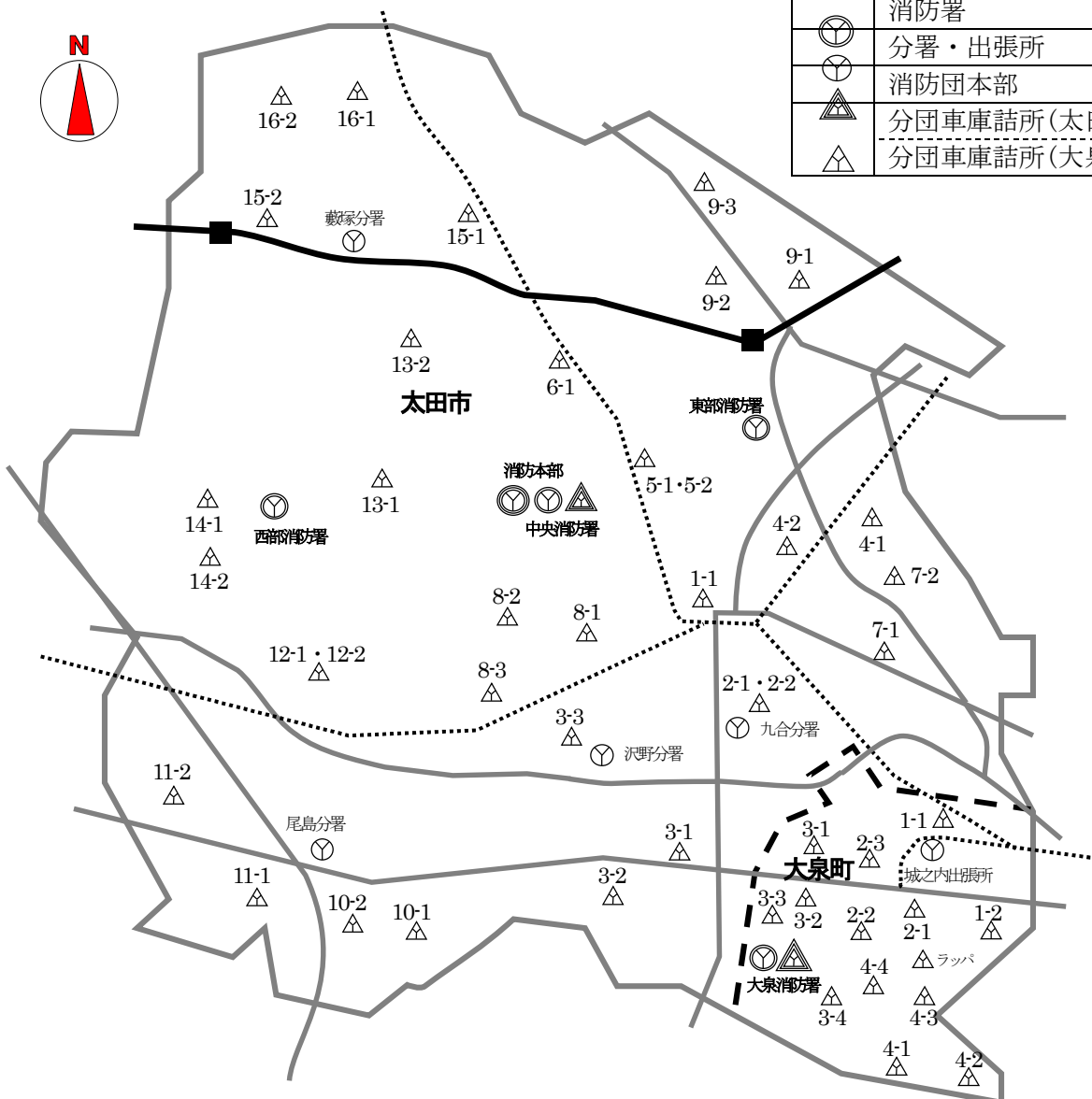
4 消防機関の所在地及び配置

令和8年4月1日現在

名称	所在地	電話番号	FAX
消防本部	太田市鳥山下町 409 番地 1	0276-33-0119 (代)	0276-33-0301
中央消防署 中央消防署沢野分署	太田市鳥山下町 409 番地 1 太田市細谷町 211 番地 2	0276-32-6119 0276-33-7119	0276-33-0304 0276-33-7120
東部消防署 東部消防署九合分署	太田市東金井町 262 番地 1 太田市飯塚町 87 番地 1	0276-40-2119 0276-46-9119	0276-40-2149 0276-46-9124
西部消防署 西部消防署尾島分署 西部消防署藪塚分署	太田市新田金井町 607 番地 太田市粕川町 432 番地 1 太田市山之神町 243 番地 2	0276-56-8119 0276-52-3119 0277-78-1119	0276-56-8124 0276-52-3287 0277-78-1129
大泉消防署 大泉消防署城之内出張所	大泉町大字寄木戸 614 番地の 1 大泉町城之内二丁目 25 番 2 号	0276-62-3119 0276-63-2119	0276-62-3124 0276-63-4423

凡例

記号	種別	数
◎	消防本部	1
○	消防署	4
○	分署・出張所	5
△	消防団本部	2
△	分団車庫詰所(太田市)	30
△	分団車庫詰所(大泉町)	14



5 消防庁舎の現況

令和8年4月1日現在

名 称	敷地面積(m ²)	延床面積(m ²)	構 造	完成年月
消 防 本 部 中 央 消 防 署	19,631.96	事務棟	4,095.96 鉄骨鉄筋コンクリート造 5 階建	H10. 3
		車庫棟	2,531.47 鉄骨造 3 階建	
		体 力 錬成棟	1,224.58 鉄骨造 2 階建	
		小 型 車庫棟	668.43 鉄骨造 1 階建	
		訓練塔	718.68 鉄骨鉄筋コンクリート造 7 階建 鉄筋コンクリート造 2・2 階建	
沢 野 分 署	3,001.00	事務棟	846.13 鉄骨造 2 階建	H26. 3
東 部 消 防 署	6,784.28	事務棟	1,887.55 鉄骨造 2 階建	H24. 3
		訓練塔	516.31 鉄筋造 4・2・3 階建	H24. 3
九 合 分 署	4,333.54	事務棟	987.90 鉄骨造 2 階建	H19.10
		訓練塔	333.38 鉄骨造 6 階建	
西 部 消 防 署	4,520.00	事務棟	992.81 鉄骨造 2 階建	R 5. 2
		訓練塔	228.00 鉄筋コンクリート造 2 階建	R 6. 6
尾 島 分 署	5,864.73	事務棟	1,140.94 鉄骨造 2 階建	H12. 3
		訓練塔	424.76 鉄骨造 1・1・6 階建	
藪 塚 分 署	4,778.92	事務棟	987.90 鉄骨造 2 階建	H20.12
		訓練塔	388.17 鉄骨造 1・1・6 階建	
大 泉 消 防 署	4,695.30	事務棟	836.50 鉄骨造 2 階建	H 3. 8
		訓練塔	198.84 鉄骨造 2・2・3 階建	H11. 3
城之内出張所	1,128.32	事務棟	472.20 鉄骨造 2 階建	H28. 2
計	54,738.05	19,480.51	———	———

6 消防相互応援協定等の状況

令和8年4月1日現在

協 定 名	協定締結 年 月 日	協 定 団 体 (協定締結時の団体名)	協定の災害種別
消防相互応援協定	H17. 4. 21	深谷市・岡部町共同事務組合	特定していない
消防相互応援協定	H17. 5. 2	足利市	特定していない
特殊災害消防対策 相互応援協定	H18. 7. 11	伊勢崎市 館林地区消防組合 佐野市 足利市 桐生市	特殊災害 (危険物施設・中高層 建物火災等の特殊災 害及び多数の死傷者 等が予測される災害)
群馬県防災航空隊支援協定	H18. 3. 27	群馬県	特定していない
消防相互応援協定	H 9. 9. 29	熊谷市	特定していない
群馬県消防相互応援協定	H24. 9. 3	前橋市 高崎市・安中市消防組合 桐生市 伊勢崎市 利根沼田広域市町村圏振興整備組合 館林地区消防組合 渋川地区広域市町村圏振興整備組合 多野藤岡広域市町村圏振興整備組合 富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合 吾妻広域町村圏振興整備組合	特定していない
関越自動車道、上信越自動車道及び北関東自動車道における消防相互応援協定書	H26. 2. 22	児玉郡市広域市町村圏組合 多野藤岡広域市町村圏振興整備組合 伊勢崎市 高崎市・安中市消防組合 前橋市 渋川地区広域市町村圏振興整備組合 利根沼田広域市町村圏振興整備組合 富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合 佐久広域連合 足利市	特定していない
消防相互応援協定 (消防団)	H17. 3. 28	大泉町	火 災
消防相互応援協定 (消防団)	H17. 3. 28	伊勢崎市	火 災
消防相互応援協定 (消防団)	H18. 3. 27	みどり市	火 災
鉄道災害時における鉄道事業者と消防機関との連携に関する協定書	H21. 7. 1	東武鉄道株式会社 桐生市消防本部 伊勢崎市消防本部 館林地区消防組合消防本部	鉄道災害
地震等災害時における消火活動業務における協定	H17. 4. 12	群馬県東毛生コンクリート事業協同組合	水の供給活動
太田市災害緊急放送に関する協定	H10. 7. 1	株式会社おおたコミュニティ放送	災害情報等の提供
火災等災害時における支援活動業務に関する協定	H27. 7. 21	太田建設業協同組合	重機等の支援活動
ドクターカー運用に係る協力に関する協定	R 3. 10. 28	SUBARU健康保険組合太田記念病院	医師による早期治療を要する救急
無人航空機(ドローン)による消防活動の協力に関する協定	R 4. 6. 23	(一社)日本ドローン協会栃木支部	災害現場等の撮影
消防相互応援協定	R5. 12. 18	桐生市	特定していない

7 消防予算及び決算

(単位：千円)

(1) 市当初予算額（一般会計）と消防費予算額の比較

年度	区分	市 予 算 額	消 防 費 予 算 額	比 率 (%)
令和7年度		99,800,000	3,970,168	3.98
令和8年度		98,000,000	4,415,615	4.51

(2) 消防費予算額の内訳

年度	区分	常備消防費	非常備消防費	消防施設費	防 災 費	歳 出 合 計
令和8年度		3,575,054	329,684	408,047	102,830	4,415,615

(3) 市町決算額（一般会計）と消防費決算額の比較

年度	区分	市 町 決 算 額	消 防 費 決 算 額	比 率 (%)
令和6年度	太田市	101,807,048	4,262,985	4.19
令和6年度	大泉町	17,593,175	878,320	4.99

(4) 消防業務を受託している町の当初予算額（一般会計）と負担金額の比較

年度	区分	大 泉 町		比 率 (%)
		町 予 算 額	常備消防費負担金額	
令和7年度		23,769,000	1,011,190	4.25
令和8年度		16,570,000	764,593	4.61

— メモ —